

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	線形代数 B	
科目基礎情報							
科目番号		0046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		電気電子工学科		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		〔教科書〕「新線形代数」高遠節夫 ほか著、大日本図書／〔参考書・補助教材〕「新線形代数問題集」高遠節夫 ほか著、大日本図書, 「新編 高専の数学 2 問題集 (第 2 版)」田代嘉宏 編、森北出版					
担当教員		村上 浩					
到達目標							
(1) 平面における 1 次変換についての基本的事項を学び、回転など図形的な問題への応用を考える。 (2) 固有値、固有ベクトルについて学び、行列の対角化が行えるようにする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1. 線形変換の定義や性質を説明できる。		線形変換の定義や性質を説明できる。さらに、線形変換による点や直線の像を求めることができる。		線形変換の定義や性質を説明できる。		線形変換の定義や性質を説明できない。	
評価項目2. 線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。		線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。さらに、原点を中心とした回転移動を行列によってあらわすことができる。		線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。		線形変換の合成変換や逆変換を求めることができない。	
評価項目3. 行列の対角化を行うことができる。		行列の対角化を行うことができる。さらに、行列の対角化可能条件を説明できる。		行列の対角化を行うことができる。		行列の対角化を行うことができない。	
評価項目4. 直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。さらに、対角化の応用として、行列の n 乗や 2 次形式の標準形を求めることができる。		直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		直交行列により対称行列の対角化を行うことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		(1) 線形代数 A の知識を前提とする。 (2) 線形代数の知識は、工学や経済学など多くの分野で必須なものである。					
授業の進め方・方法		本科目は講義・演習形式で行う。					
注意点		(1) 教科書等を参考に予習を行い、講義に臨むこと。 (2) 受講後は要点をまとめ、問題演習を行い、学習内容の定着をはかること。 (3) 疑問点は質問を行い、後に残さないように心がけること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 線形変換		□線形変換の定義や性質を説明できる。		
		2週	1. 線形変換		□線形変換による点や直線の像を求めることができる。		
		3週	1. 線形変換		□線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。		
		4週	1. 線形変換		□原点を中心とした回転移動を行列によって表すことができる。		
		5週	1. 線形変換		□直交行列と直交変換の定義や性質を説明できる。		
		6週	2. 行列の階数と線形独立		□行列の階数と線形独立なベクトルの個数との関係を説明できる。		
		7週	2. 行列の階数と線形独立		□行列の階数と線形独立なベクトルの個数との関係を説明できる。		
		8週	3. 固有値と固有ベクトル		□行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。		
	2ndQ	9週	3. 固有値と固有ベクトル		□行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。		
		10週	4. 行列の対角化		□行列の対角化を行うことができる。		
		11週	4. 行列の対角化		□行列の対角化を行うことができる。		
		12週	4. 行列の対角化		□行列の対角化可能条件を説明できる。		
		13週	4. 行列の対角化		□直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		
		14週	4. 行列の対角化		□対角化の応用として行列の n 乗や 2 次形式の標準形を求めることができる。		
		15週	試験答案の返却・解説		各試験において間違えた部分を自分の課題として把握する (非評価項目)。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。		3	
				合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。		3	

				平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
評価割合						
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0